

反帝反封建国際闘争の前進のために！
先進的学友は社学同に結集せよ！

赤光

№ 36

1967.11.6

社会主義学生同盟政治機関紙
(マルクス・レーニン主義派)

目次

* 11・12 羽田実力闘争で佐藤訪米を阻止せよ！

* ロシア革命50周年記念
11・7 集会基調報告

* 歩哨

11・12 羽田実力闘争で佐藤訪米を阻止せよ！

日米両帝国主義のアジア分割——アジア支配を許すな！

11月12日、佐藤の訪米を羽田で実力阻止せよ！ ベトナム反革命を公然と宣言した日本帝国主義者の国際的権威に、労働者人民の名において痛打を浴せよ！ 10月21日、国際的に労働者人民は、ベトナム侵略戦争に反対して、闘争に立ち上がった。アメリカ帝国主義は、その体内からも公然たる反対部隊の登場を見る程、苦境に立っている。我々の17日の闘争は、これに支えを入れようとしている日本帝国主義に痛打を与え、再度我々の国際主義を取りもどし、全世界の労働者人民と連帯するものである。山崎君の革命的英雄主義を自らのものとして前進しよう！

全部・全国の先進的学友諸君！
10・8羽田闘争の偉大な成果を引き継いで、全世界の労働者市民の手によって、10月21日の国際ベトナム反戦統一行動は闘われた。東京の労働者学生の数々の隊列は、佐藤のサイゴン入り抗議して、激しい闘争を展開した。アメリカの労働者学生は、ついにベトナム反革命戦争の遂行の張本人国際総督への激しい攻撃を開始した。又、イギリス、フランス、ドイツを始めとして、ヨーロッパ各地の学生市民も闘いに決起している。今や、アメリカ帝国主義のベトナム解放戦争へ対する反革命戦争に反対する

全世界労働者市民の闘いが、公然と巨大なうねりをもって、支配者階級にせまりつつあることを確認することができる。10月8日、全部全国の先進的学友労働者の羽田での実力の闘いは、日本政府支配者階級の東南アジアへの侵略外交へ痛撃を与えるに充てられた。我々の闘いは、ベトナム人民を始めたとする東南アジア諸国人民へ、日本帝国主義者がアメリカ帝国主義とともに、共同の敵となっていることを明らかにした。アメリカ労働者学生や、ヨーロッパの労働者学生たちが、日本の支配者階級はアメリカ帝国主義と協力してベトナム反革命を闘

「アメリカのベトナム戦争は正しくない」と考える人々が倍々に増大している。(ア)

リントン二四日発（ギラップ通信）南
ベトナム下院選挙でのサイゴン市内での全
員政府候補の当選と合わせて、アメリカ
帝国主義のベトナム反革命政策は、ますま
す苦境に立たされている。21日の闘いは、
「米国の侵略と闘うベトナム人民への貴重
な支援」（ベトナム労働党ニャンサン声明）
となっているのだ。

首都東京の労働者学生闘いは、この国
際的闘いの重要な一環として、全世界人民
の闘いに真向から敵対してサイゴン入りし
た佐藤政府へ対する激しい抗議行動として、
首相官邸へ向けて闘われたのだ。10月8日
の羽田の闘いが、圧倒的労働者学生大衆に
突きつけたクサビは、21日の佐藤サイゴン
入りを前にして、ますます全てのベトナム
侵略戦争に反対する人々にせまされた。ベト
ナム人民を始めとする全世界の労働者学生
市民と連帯するのか、それともその連帯を
拒否して自らが侵略者に屈服していくのか
と。10・21闘争の圧倒的学友の結果は、ま
さしく羽田闘争の成果であり、多くの学友
たちが全世界の労働者人民の闘いに支えら
れて、ベトナム侵略戦争反対へ動きつつあ
ることを示していた。10・21闘争で切り開

リカ帝国主義戦後世界体制——極東軍事体
制に從っていた日本帝国主義は、独自の軍
事力を強化しつつ（第三次防）、その政治
的獨立を強めている。沖縄返還、自衛隊沖
縄派遣、米韓日共同演習等、日米軍事専門
家会議がその最も露骨な表現である。

日本帝国主義の現局面は、沖縄への帝国
主義ブルジョアジーとしての領土的野心と
沖縄軍事基地の国際的、政治的、軍事的重
要性からして、アメリカ帝国主義からの沖
縄の返還を棄絶させている。しかし、ベト
ナム人民の革命闘争の前進は、日本帝国主
義の植民地侵略の野望に重大な脅威となっ
ているがゆえに、ベトナム戦争の後方基地
沖縄の重要性は一層明らかになってきてい
る今日、その軍事基地としての機能を保持
する事が、日本ブルジョアジーにとっても、
要請されているのだ。

かかる見地から、佐藤の訪米と日米会談
は、第一に沖縄人民の祖国復帰から軍事基
地撤去へ向うとしている解放闘争への反革
命的弾圧を強化する事であり、第二に、沖
縄返還の時期米西にせまり、沖縄本土一体
化政策を強化する保証を得ることである。
「沖縄が本土復帰したら沖縄の人民の闘い

かれたこの闘いの条件こそ、12訪米阻止闘
争へ引き継がれるべき重大な成果である。

〔二〕

サイゴン訪問——ベトナム反革命介入と
いう形で全世界の政治問題へ公然と参加し
た日本帝国主義ブルジョアジーは、11月佐
藤訪米——日米関係再編成への突破口を切
り開こうとしている。東南アジアの分割の
宣言であり、大東亜共栄圏への植民地侵略
の開始、各国人民への際限なき収奪と抑圧
の時代へと情勢は転換しつつある。ベトナ
ム反革命への日米両国ブルジョアジーの共
同政策と、東南アジアの帝国主義的分割、
これこそ佐藤訪米日米会談のもたらすも
のであり、帝国主義の死闘とそれゆえの反
革命協調からして、我々の闘いは、一分の
妥協なき実力闘争として、一切の日和見主
義、議会議主義、中間主義との不可避の闘争
を通じて獲り取られるのだ。

佐藤の二回の東南アジア訪問は「各国と
の経済協力の強化を約し、地域協力の推進
を強調するとともに内政不干渉と平和共存
を対外関係の原則としてうたいあげ、ベト
ナムの平和解決を願望した」（朝日新聞10

が本土に広がる」からブルジョアジーは本
土復帰を阻止するのだなどというお目出た
い論理は戯画である。闘争は、そう簡単に
広がる程形而上学的ではないし、ブルジョ
アジーは、それに打ち勝つ事を含んで（そ
のような弾圧体制をもって）帝国主義的政
策を行なうのだ。ベトナムの闘いが、米本
国に広がるからといって、アメリカ帝国主
義は侵略をやめはしない。

日本ブルジョアジーは、軍事基地撤去の
闘いへ進行し、教公二法闘争に見られる鋭
い闘いへと突き進む沖縄人民の闘いの、ブ
ルジョアジー的集約として、沖縄民主党のヘ
ゲモニーの下に祖国復帰運動をまき込みも
うとしている。ここにも日本帝国主義は、ア
メリカ帝国主義の軍事支配にかわって、民
族主義的支配の方向をとっている。

従って12日佐藤訪米——日米会談は、ベ
トナム反革命のための日米の政策協定をそ
の主要な目標として、日本帝国主義の東南
アジア支配権へ強化と、その公然たる国際的
宣言に他ならない。日本帝国主義が、アメ
リカ帝国主義と共に、アジア人民の共通の
敵として登場することに他ならない。

月22日付社説）ものであり、アメリカ帝国
主義との外交政策のニエアンスを強調し、
東南アジアでの独自の政治的勢力圏構築へ
突き進むものである。「中国との間の門戸
を開いておくよう各国に訴え」たことに示
されるアメリカの「反共」を旗印とした
アジア政策に對置した、アジア諸国の民族
主義に介入する「アジア人の手でアジアを
開発する」「大東亜共栄圏」が一層明瞭に
なってきた。「その前提となるものは、経済
的地位に相応する政治的地位の確立」であ
り「それは外交の自主性を常に確保して
おくことが必要」であるのだ。

佐藤訪米こそは「政治的地位確保」「自
宅外交」への橋頭堡であり、日本帝国主義
の東南アジア侵略政策をアメリカ帝国主義
に認めさせ、逆にベトナム反革命への協力
を約するのだ。原子力空母エンタープライ
ズ号の寄港承認は「手みやげ」として、ま
さしく取り引きの材料になっている。

沖縄問題と日米安保体制こそは、その独
自外交——アジアでの政治的地の確立へ
の障壁であり、東南アジアでの勢力圏構築
——日本帝国主義確立への最大問題である。
帝国主義侵略軍隊の弱体性のゆえに、アメ

10・8羽田闘争は、日本労働者人民の国
際主義的精神を充分に発揮した闘いであっ
た。日本帝国主義が、東南アジア人民の共
通の敵となりつつある事を明らかにした。
10・8闘争は、ますます我々の闘いが、ベ
トナム人民の解放戦争と結びつき、日本帝
国主義者が支配しようとしている地域の人
々——被抑圧人民と連帯して闘わなければな
らないこと、そのような崇高な国際主義精
神なしにプロレタリア的闘争はないことを
示していた。

帝国主義列強の抗争の激化、植民地侵略
の激化がもたらした、人民へのさらなる一
層の抑圧、弾圧の強化は、人民の闘いの反
撃の動きを強めている。戦後世界体制の崩
壊は、国際的階級闘争を新たな局面に至ら
してあり、その現点こそがベトナム人民の
革命闘争であり、全世界的な闘いの決起、
公認指導部にかわる新たな闘争部隊による
戦闘の開始である。（中国プロ文革、アメ
リカ、ヨーロッパの反戦闘争、LAのゲリラ
闘争）。

ワシントンペンタゴンを襲ったアメリカ
の反戦闘争は、次の点でこれまでの闘いと

預的に異ったものであった。(1)学生の組織
された部隊が登場した事、(2)プチブル市民
主義的平和運動「ベトナムに平和を」か
ら、アメリカ政府——ジョンソン大統領を
敵として明確に設定し、しかも解放戦線を
公然と支持するプロレタリア的闘争へ遂行
しつつある事。(3)当局側は、首都警察総動
員その他、州兵二千、憲兵五千、降下部隊六
千の動員を行なわなければならない程の東
力闘争として展開された。(4)従って、米國
政府のベトナム政策は「南ベトナムの民族
自決を守るため」との意義付けから「米國
の安全確保のための闘い」と変化し、アメ
リカの進路を決定する様な二大階級の対立
への様相をますます濃厚にしてきてゐる。

黒人解放闘争を一つの契機としながら、
全世界人民との連帯した闘いへのアメリカ
反戦闘争の前進は、一面面を画するまでに
前進したことを確認する事ができる。

帝國主義者の植民地支配の徹底化は、こ
れら植民地や半植民地、従属國での人民の
闘いを激化させつつあること。帝國主義本
國の労働者階級の運動が、組合主義的、合
法主義的、排外主義的反帝國主義的労働運
動への傾斜を深めているのは、帝國主義本

國の金利生活者の性格や排外主義的民族主
義に基盤があった。

この帝國主義的労働運動を打ち破るもの
こそマルクスレーニン主義であったし、社
民左派との決定的区別であった。ベトナム
南解放戦線との支持連帯や支援は、種々の
ブルジョア的、帝國主義的運動との分岐点
となつていたのであり、10・8闘争や10・
21のアメリカ反戦闘争はその事を証明した。
ベトナム人民の解放闘争は、生れつつあ
る全世界労働者人民の國際主義の導きの星
であり、その事を深く銘記し闘いを進めな
ければならない。

四
かかる見地から、我々の佐藤訪米——日
米会談阻止闘争は、次の様な内容をもつて
闘いとらなければならない。

第一に、
日本ブルジョアジーのベトナム問題への
介入、日米両帝國主義の共同したベトナム
反革命への徹底した抗議闘争である。10・
8闘争が生みだした。サイゴンの学生や解
放戦線との連帯を真に我々にもたらすもの
として闘いとらなければならない。

義の確立を阻止する闘いに引き継がれなけ
ればならないのだ。

止しよう！
「エンタープライズ寄港阻止」
「10・8闘争を上まわる闘いをもつて、全
世界労働者人民との連帯を獲ちとろう」
解放戦線と共に闘おう！

全部、全國の先進的学友諸君！
10・8闘争は、ブルジョアジーのみなら
ず、既成運動内の日和見主義者たちをも戦
慄させた。社会党は、11・9闘争のスロー
ガンから訪米阻止を下し、「訪米には反対
でない」と公然と自民党政府へ協力し始め
ている。10・8「赤旗まつり」で逃亡した
代々木日共は、再びスポーツ祭典と堂に入
った戦線逃亡を画している。

だが我々は、10・8闘争を倍する労働者
学生の手をもつて、羽田で闘いぬくのだ！
10・8闘争が生みだした、國際主義の赤旗
を手にもつて、前進するのだ！ 日本帝國
主義の侵略の野望を打ち砕くまで闘うのだ！

全國の先進的学友諸君！
「全学連の旗の下、11・12佐藤訪米阻止闘
争を闘いぬこう」
「10・21闘争の大众的昂揚を我々の戦列に
加え、圧倒的力で闘おう」
「米軍在米空軍へのステップ佐藤訪米を阻
止しよう」
「ベトナム反革命の激化を阻
止しよう」

ロシア革命五〇周年記念 II・ワ集会基調報告

社会主義労働者同盟
社会主義学生同盟(マルクス・レーニン主義派)

革命万才！
「労働者兵士代表ソビエト第二回
全ロシア大会 農民ソビエト代表」
「一九一七年一月二十五日(一月七日)」

「プロレタリア世界革命闘争を
闘い抜こう！」

「ロシア革命と世界革命の成功は、二、
三日の闘争にかかっている」ハ一九一七年
一月八日(二一日)「一号外者の助言」

「労働者、兵士代表ソビエト第二回全
ロシア大会はひらかれた。大会には圧倒的
多数のソビエトが代表をおくっている。大
会(二三日)ロシア社会民主労働党中央委
員会会議」

「中央委員会は次の事を確認する。ロ
シア革命の国際的地位(全ヨーロッパにわた
って世界社会主義革命が成長していること
の極端な表示としてのドイツ海軍の暴動、
さらにロシア革命をしめこす目的で帝国
主義者が講和をむすぶべきさしのあること)、
その軍事的情勢(ロシアのブルジョアジー
とクレンスキー一味が疲いもなくベトログ
ラードをドイツ軍にあけたす決心でいる
こと)、またプロレタリア党がソビエト内
で多数をしめたこと、……こうしたこと
がすべて、武装蜂起を日程にのぼせている。
このように中央委員会は武装蜂起が不可避
であり受分に熟したことを確認して、全党
組織がこれを指針としてすべての実践的闘

争と民主主義的講和の運命は諸君の手中に
握る。」

我々は、日本における階級闘争の中で
プロレタリア世界革命を貫徹することとして
ここに結集している。
我々は、単に「お祝い」に集ったのでは
ないし、大単に「話し合い」に集ったので
もない。我々がここに集ったのは、我々が
まさに共産主義をめざし、そしてプロレタ
リア世界革命をめざしているからである。
我々がここに集ったのは、未だロシア革命
以降五〇年を経るにもかかわらず、全人類
の三分の二が帝国主義の重圧の下にあり、
資本家階級と地主共とその手先の抑圧の下
にあり、日本もアジアもその通りであると
いう厳しい現実を、我々の闘争で打ち破る
うと決ましているからであり、日本におけ

るプロレタリアートの斗争によつてプロレ
タリア世界革命を現実化せんと決意し
ているからである。我々がここに集ったの
は、日本のプロレタリアートが未だに革命
の階級として日本及び世界階級斗争にその
勇姿をあらわしておらず、あれこれのブル
ジョワ思想と修正主義、日和見主義に毒さ
れている事を我々の実際の斗争の経験の中
で自覚しているからであり、我々自身をマル
クスレーニン毛沢東主義者に、すなわちプロ
レタリア革命家に革命化しつゝ日本プロ
レタリアート人民の革命化と共に進まんと
しているからである。我々がここに集った
のは我々自から革命化しはじめたばかり
であり、又日本プロレタリアートと被抑
圧人民の革命化もはじまったばかりである
にもかゝらず、我々が正しい革命の思想、
革命の戦略、革命の組織を堅持し、困難に
まげず、迫害にまげず闘いぬくなら、プロ
レタリア世界革命と日本革命は不可避であ
ることを、全世界の革命斗争と階級斗争の
歴史と革命的先人の思想と理論から深く学
びとつており、そして、プロレタリア日本
革命「世界革命」そして世界共産主義實現
へ、「独りぼっち」からでも闘いをはじめる

ことを決意しているからに他ならない。
そして、我々は「独りぼっち」ではない！
事実、すでに日本帝国主義に対する革命的戦
闘の経験を積んで内外から「革命の子」とし
て賛えられている同志、ブルジョア的な、プ
チブル的な、仕民的な、修正主義的な「労働
運動」を打ちこわし「常識」を打破った革命的
労働運動を展開しつつある同志を日本帝国主
義者の政治革命政策を徹に入り細に互り暴露
し続けた階級闘争に奉仕している同志、極め
て意識的に労働者の中に入りさまざまな戦闘
的組織を形成しはじめている同志、世界革命
の現実の闘争と意見を日本でプロレタリア
トと被抑圧人民に伝えそして組織化を行つて
いる同志、等々……はつきりと我々が「独
りぼっち」ではないことを見ることができ
る。

我々は、様々の闘いの中で信頼できる真の
プロレタリア革命の同志、親友としてお互を
発見してきた。そして我々が、闘争し、活動
し、討論していく中で、このような同志の論
は一層拡大していくであらう。
同志諸君！
我々は今プロレタリア世界革命の事業をはじ
めたばかりである。日本革命闘争をはじめた

「我々は、偉大なレーニンとロシアプロレタリアートの革命を祝い、継承しなければならぬし、又必ずそうしうるのである。」

三 我々の闘争と原則

同志諸君！

我々は、日本の階級闘争の中で最も戦闘的な修正主義者・中間主義者・社民の目から見ると「最も過激な」「極左的」な闘いを展開してきた。すなわち、最も革命的な、最もプロレタリア的な、最も原則的な闘争を行ってきたし、又行なおうとしている。無論、我々以外にも勿論多くのプロレタリアートや先進的學生が、同じような闘いを展開して来たし、また行なっている事を忘れてはならない。ましてプロレタリアートを、そのような革命的闘争を心で待ち望み、又決意した！例え何らかの事情でなし得なかったとしても！ことは、おそらく限りないであろう。

尤我々が特に「過激」とされ「極左」とされ、すなわち最も革命的でありプロレタリア的であったと相対的に言っているのは、あれこれのブルジョアジーとの取引や帝国

主義者の誠意や善意に一切の期待をかけず、専ら労働者と人民の団結力、戦闘力、革命精神に依拠し、その力で真向から敵権力、敵階級との戦闘を挑んだ事にある。すなわちそれは、我々自身を革命化し日本プロレタリアートの革命化を促したのであって、だからこそ敵権力、敵階級として修正主義日和見主義の脅怖を呼んだのである。

そして我々は、かゝる種類の闘争を点々と労働運動の中で、学生運動の中で、反帝闘争の中で闘ってきた。今や我々はどこにいるか？我々の運動は今一歩どう発展すべきなのか？

それは次の通りである。

我々の今までの闘争を一層意識的計画的長期的なものとする事、我々の今までの闘争を一層組織的に拡大し、一層人民大衆を、我々の闘争の中からいくつかの重要な原則を発見し確立する事、これである。

同志諸君！ それこそ我々が当面する最も具体的な課題である。そして、我々の今までの闘争は、勿論単なる思いつきや偶然の代物でないこともあきらかである。我々

の革命的な原則は、いりまでもなく日本階級闘争の状況の評価とマルクスレーニン主義と毛沢東思想、すなわちプロレタリア世界革命闘争の歴史的经验とその理論に基づいていた。

とすれば、我々が我々の闘争を一層発展させる課題を解決することは、当然にも遅

鈍それ自身の具体的な展開と我々の理論思想上の前進の弁証法的関連の総括ぬきにしてはありえず、理論と思想それ自身と、方針ぬきにはありえない。

三 プロレタリア革命の組織戦略

同志諸君！

我々の闘いが長期にわたることは至極当然のことである。なぜなら我々は、最強の戦闘性を誇るとしても極めて少数であり、日本プロレタリアート人民は、ブルジョア

風に深く汚され現代修正主義と社民改良主義に深く毒されているからである。無論

我々は修正主義者風に「日本人民の過半数」を獲得するまでなどという風には言わない。階級闘争の弁証法は、一が二以上を創り出し、二が二以上を創り出すものである。それは、

革命的な階級の増進と戦闘精神をもっているプロレタリアの中で闘っているのであって「純粋」に創り出すというのではないからである。そして又それはフイデル・カストロも言っている通り「行動こそが大衆の内部に革命思想を確立させる最も有効な方法の一つなのだ」というような本質をもつ宣伝であり教育なのである。

同志諸君！

我々はマルクスレーニン主義と毛沢東思想に基づいて闘ってきた。特に労働運動における資本家階級とその手先の直接の戦闘、政治闘争におけるブルジョア権力との直接の戦闘を革命的に闘ってきた。

我々の闘争は、この闘いの中から導き出される原則を確立することが第一である。そしてこの闘いを長期的意識的組織的なものにするのが第一である。つまり

ものとする事である。

第一の点、我々の闘争から導き出される戦闘の原則を考えて見よう。それは次のようなことである。

常に闘う大衆に依拠すること。闘う大衆の団結や、戦闘力、精神力創性を基礎をおくこと。

敵階級、敵権力との直接の闘争、実力闘争を行なうこと。

プロレタリアートと先進的人民を「言葉なくみ」引き廻すのではなく、卒直に闘争の真実を語る事。

情勢を分析し、任務を確認し、かつ闘争の絶活を全面的に行うこと。

全世界のプロレタリアート被抑在人民の闘いと関連で自らの闘争の意義を示すこと。

具体的な戦闘、活動において一致する仲間とは若干の思想や理論の違いを内部の矛盾とし、闘争の中で解決すべき対立として処理し、共同すること

調査し、学習し、理解しやすい形で大衆に宣伝煽動して戦闘を準備すること。

指揮者、前衛部隊、大衆を区分して可能な限りの力をそれぞれ發揮させること。宣伝煽動、闘争組織工作、戦闘指揮準備救護等の任

務を分担し遂行すること。

等である。(他にも勿論ある)

第二の点我々の闘争を長期的意識的組織的なものにするために、具体的に考えらることは次のことである。

闘争を支える組織を不断に準備すること
戦闘精神及び革命思想を宣伝し教育する組織がつまり他方ブルジョア社民的修正主義的精神・観念・理論・思想を不断に大衆の中から駆逐する組織。各種の闘争の発展の中で必ず不可避に必要とされまた創り出される、実力闘争の部隊を不断に、いかなる状況においても準備すること。

闘争の指導部を組織的にも思想的にも強めるため不断に革命的大衆の中の指導者を抜擢すること。各種闘争を準備するにあたっては、闘争参加可能な一切の集団、団体、組織との協力を追求すること。

闘争の終結にあたっては次の闘争にむけて闘った部分を次の任務で再組織化してゆくこと。

などである。

これらは専ら、我々の闘争そのものから直接に導き出されたものである。すなわちわれわれの運動全般からみればきだされた

のではなく運動のひとつの結節点であり表現である戦闘その中から導かれたものである。

今、挙げた原則は従つてより大きな原則に高められなければならない。そしてより具体的な原則に高められなければならない。すなわち、個々の戦闘の原則を、運動全体の原則の中に含み込みかつ高めねばならないのである。それこそすなわち組織戦略の問題に他ならないのである。

我々の目的はつきりしている。人類の中の階級対立、差別を解消し、「能力に依りて働き必要に応じて分配する」人間の自由の王国たる、共産主義世界をつくることである。そして、そのためには何よりも最も革命的な階級であり、最も先進的な階級である労働者階級の権力を打ちたてねばならず、しかも全世界的に打ちたてねばならない、プロレタリア革命を遂行し、プロレタリア革命をプロレタリア独裁下においてもそしてブルジョア独裁下の社会でも不断に連絡的におこなわねばならない。そしてそのためには、日本プロレタリアートが、不断に革命的意識を高め、組織化

四 プロレタリア革命の戦略的観点

同志諸君！

我々は十分な勢力になりえていない。だから我々―当面する歴史的課題は、プロレタリアートと人民を組織することであり、革命の綱に組織することである。

すなわち、「行動こそ最良の宣伝である」という事を前提に、斗争によつて組織し、斗争の中で組織し、斗争のために組織し、斗争の後次の斗争へ組織するという活動が要求されるのである。

又、このようなことが単に必要であるというばかりでなく、十分可能であることを理解し確信を持たねばならぬ。今日の日本帝国主義は、いわば革命斗争に対し、プロレタリアートの斗争に対して半合法、半非合法の状況にある。この事は、宣伝と教育と組織化に独特な様相を与えるのである。

(我々が半合法半非合法というのは次の事を意味する。修正主義、社民やブルジョワ的分子の「政治活動は十分合法的であり革命的プロレタリア的な分子の斗争や活動には重大な制限・抑圧、妨害があること。街頭における「一定」の権利と職場工場内での活動の徹底的弾圧、経済斗争に対する一

を行ない自からを革命化しつゝ日本革命斗争の任務と国際革命斗争の任務を果すことが必要である。

このことを現在の実践的に果たしていくとはどういふことか？ それを挙げてみよう。

労働者階級の中にじつかりとした組織を作らねばならない

常に労働者階級の大衆に伝換すること。つまり、デスクより現場、現場ではより地位の低く労働条件の悪い部分に依りたものより未組織、大企業より中小企業労働者の要求と活動を重視する常に戦闘の部分及び青年労働者に依りた。常に斗争準備においては、徹底的実力斗争の準備つまり実力斗争の部隊を組織的思想的に準備すること

常に国際革命斗争を理解し、革命人民、プロレタリアートを連合するための活動を強化すること

常に各種の政治問題を分析し、系統的に斗争を準備する

展させる
労働組合のプロレタリア化、革命化を遂進し、職場、工場委員会を創り出し、それを地域や産業において結合させていくこと

系統的な革命精神、作風、思想、理論、戦略の宣伝、煽動、教育を行なう

同志諸君！

我々は今まで、文字通り運動に則して原則的観点を模索してきた。そしてこれらのことは要するにマルクスレーニン毛沢東主義の革命的原則・プロレタリアートの階級的立場の一部に他ならず又それを日本の情勢に適用したものであることを感じていたと思ふ。

すなわち、組織戦略の最後の問題は、今まで述べてきた原則的観点を、世界階級斗争の現局面に対応させ、日本階級斗争の現局面に対応させ、プロレタリア革命斗争の現局面に対応させることに他ならない

すなわち、世界資本主義の現局面、日本帝国主義の現局面、世界及び日本階級斗争の現局面に対応させ活かすのでなければならぬ。

定の権利と政治活動の抑圧、等を指す)つまり、我々の宣伝煽動が一定程度許されているし、又ブルジョワ政治及び階級政策の個々の問題について人民は少くとも知つていふという状況にある。だから、ブルジョワ政策への個別戦闘が意識的に作り出しうるし、国際的国内的な階級斗争の状況や日帝の動きからする個々の任務を大衆に提起することができている。

又、日本階級斗争前進のひとつの重大な条件として、日本帝国主義のひとつの重要な階級政策を粉砕、撃退することによつて政治情勢全体の昂揚を創り出すことができ革命斗争に有利な条件を創り出すことができる。

以上のことを前提として現局面を分析してそれに対応する任務とくにこゝでは組織上の任務―組織戦略を考えに行こう。

五 現局面の特徴

労働者階級が、日本全人口の中に占める比率が過半を越えてもはや数年を経つていく。日本の階級斗争を考慮する時労働者階級の政治的状况をまず最初に考慮せねばな

らない。その指標は、ひとつは労働組合運動に示されている。すなわち、組織労働者(労働組合があるという程度を含めて)のうち金属関係を中心に百萬余の部分、I M P J C に参加するという事態がおこつていくことは、組織労働者の一部が、従来の政治的地位―反政府の立場―を失いはじめていくことと日本労働者階級の経済的要求の斗争にみせた指導性を放棄しつゝあることを示している。又、こゝ数年間労働組合運動の組織率が四〇%前後として発展しな

いという実情を考慮すると、組織労働者と未組織労働者の間に大きな溝ができていくことを認めないわけにはゆかない。そして基本的には、未組織労働者が殆んど中小企業や、下請、臨時、サービイス部門の労働者であることつまり組織労働者が一定規模以上の企業に多い事も知られている。このように組織労働者の指導部の右傾化とプロレタリアートの過半を占める部分との断絶の深まりというのが今日の状況である。

そしてこの「右傾化」は社民よりもっと右のいわば帝国主義に迎合するブルジョワ労働運動である

労働者階級の一部が、帝国主義と資本家

階級の奉仕するものとなりつゝあるという
ことそれは「帝國主義的労働運動の開始と
言うべきである。そして更に、組織され
た巨大産業の労働組合の右傾化は、
当然労働者階級内部の分裂を深めているし、
労働者階級前進の指標のひとつである。
「組織化」をほとんど停滯させている。
つまり、労働者階級の分裂がはじまって
いるのだ。このことは又レーニンが古典的
に指摘した「ブルジョアジーに買収された」
労働運動の公然たる存在という点からして
も、疑いもなく労働運動の帝國主義化とい
つべきであろう。巨大労働組の右傾化は、同
時以来、社民議会議と現代修正主義の政
治闘争が、労働組合を通じてことばだけで
も、労働者階級にもち込まれてきたという
事情を考へるなら、日本プロレタリアート
が政治問題から切り離され、政治的白痴化
部分的におとしめられる場合を充分考えさ
ねられるであろう。

そして、中小企業の連続的倒産にも示め
られるがごとく、大企業とそれを支え取巻
の対象の一つとなっている中小企業や下請
小会社の頃のプロレタリアートは、流動化
を強めていながら、大企業のプロレタ

リアートは比較的終身雇用の状態を強めて
いる。」(たとい年功序列 金が職責機能
に変化しているとしても。)

労働者階級の組織化の停滯、分裂の進行、
右傾化政治的白痴化—これは今日最悪の
発展の方向である。労働者運動が帝國主義
化しつゝあるとはすなわちこのことなので
ある。
しかも今日のプロレタリアートのかゝる情
況は、日本の階級関係全般の変化に対応し
ているものであり、日本の階級関係の変化
に対応しブルジョアジーの歴史的な階級政
策の貫徹として我々は受けとめねばならな
い。
すなわち、昭和三十年年代以降、プロレタ
リアートの増大と農民階級の政治的経済的
後退の中で、そして中小資本の整理と大資
本家—金融独占体—の強化の中で古典
的な日本の階級関係は変質したのである。
つまり、資本家階級と労働者階級の対立を
中心として農民を中心とするプチブルジ
アを味方とする側が短期的にでも政治主導
権を掌握する、という時代はすぎさってし
まった。ブルジョアジーのかゝる階級政策
は、変化を余儀なくされた。

いわゆる階級の一部を組織的に右傾化せし
め政治的に掌握することが、ブルジョワ独裁
の維持の主要な眼目のひとつとなつたので
ある。

金融独占体の海外特にアジアへの地主階級
及買弁ブルジョワジー、官僚ブルジョワジー
との結合を深め、日本のプチブルジョワとの
部分的切り捨てをまはしめざる得なかつた
のである。
日本ブルジョワジーの階級政策—日本ブ
ルジョワ独裁の形態は、プロレタリアートの一
部の組織的支配、解体しつゝあるプチブルジ
ワとの連合、アジアの反動支配階級—地
主と買弁及び官僚ブルジョワジーとの結合とし
て世界の帝國主義ブルジョワジー特に米國
のそれとの対等的同盟関係強化の歴史的变化
をとげつつあるのである。
すなわち、帝國主義的な階級政策をはっ
きりととりはじめたのである。
前述した、帝國主義的な労働運動の公然
化は、すなわち、日本ブルジョワジーの帝國
主義的階級政策の一端としてまさに展開さ
れたものであり、帝國主義的階級政策の貫
徹として現実に転化したものである。

二、プロレタリア的階級政策と組織戦略

この事は、我々にはつきりと次の事を示
している。日本の革命的左翼は、プロレタ
リア的な階級政策を持たねばならぬこと、
これである。プロレタリアートの革命的指
導部は、ブルジョワジーの帝國主義的階級
政策との真向から対決する階級政策を確立
し貫徹せねばならぬことである。階
級の政策的組織的提点をまず創造せねばな
らない

すなわち、第一に労働者階級の一部の帝
國主義化、ブルジョワジーへの屈服という
事実を認め、これらの分子を孤立させる方
向をはつきりつかまねばならない。それは、
再び新たに、プロレタリアートを労働組合
運動に組織化し、政治斗争に組織化してゆ
くという巨大な歴史的任務を我々に課する
のである
どこに依拠してこの任務を実践するか—
それは言うまでもなく「下層」のプロレタ
リアートに依拠する以外にはありえない。
より具体的には、革命的労働運動を形成
創造する事である。最も疎外され、最も抑

圧され、最も貧困なブルジョワジーの買収
の枠外にある平凡な労働者階級の大軍を組
織化することである。革命的労働組合運動
と革命的な政治斗争を労働者階級の中で組
織化すること、それこそ我々、第一の任務
である。

第二は日本ブルジョワジーとアジアの反
動階級の結合・支配を、アジア革命人民と
連帯して打ち破ることである。この事は、
同時に帝國主義的労働運動と対決する革命
的労働運動が、國際主義の旗の下にあるべ
きことを同時に示している。

第三には、米帝國主義との政治的経済的
な同盟関係を破壊することである。この事
は、勿論後述する日本帝國主義確立の政治
攻勢との対決と共に、國際帝國主義なか
んづく米帝國主義に対する國際斗争を強力
に展開することを重大な我々の歴史的任務
とするものである。そして無論、米國內の
黒人プロレタリアを中心とする革命的な人民
との連帯を深めることも結びついている
我々の革命組織戦略の第一は、か
つる日本プロレタリア革命の革命的階級政
策である。

我々のプロレタリア革命組織戦略の第三
の基礎は、日帝確立と対決する政治斗争の
戦線の問題である。

同志諸君！革命的な政治斗争の展開と準備
なくして、プロレタリア革命斗争の前進は
ありえないし、プロレタリア革命の条件
をつくり出すことはできない。
そして又、前述してきた、日本ブルジョ
ワジーの階級政策は、日本帝國主義の全階
級攻勢の前提であり、かつまた目標でもあ
るのだ。この事について我々はこゝで余り
多くの言葉を費す必要はないと思われる。
多くの事は「常識」となっているからであ
る。日本ブルジョワジーが、その武力によ
る革命的な人民の斗争への抑圧を一層強化し
ていること、教育を軸とする(教育とジャ
ーナリズムマスコミこそ日本階級斗争の最
大の戦場の場である)帝國主義的イデオロ
ギーの宣伝、プロレタリアートと人民に対
する権利の剝奪と「治安」の強化(小選挙
区制も、おそらく治安の意味を大きくもつ
ている)、帝國主義軍隊の育成と米帝及び
アジア反革命勢力との政治的軍事的結合の
強化すなわち帝國主義軍事体制の形成、等
々である。

誰でも知っているように、一九六〇年の安保条約改定とその後の日韓条約の締結は、日本帝国主義の才二次帝国主義戦争後の一つの重大な飛躍であった。それは国際政治一国際階級闘争における日本ブルジョアジーの飛躍であったと同時に、日本階級闘争における日本ブルジョアジーの運動と政策の飛躍でもあった。ここで「飛躍」とあえていうのは、一九六〇年一六五年の間にこそ、日本帝国主義の局面が、日本帝国主義の基礎の復活の局面から、確立の局面への歴史的転換がなされ、確立の局面へ

として我々はそれを歴史的な新局面として十分とらえず「権民地主義開始」「軍国主義」「ブルジョワ階級同盟」とかという部分的な現象的のしか把握できなかった。我々自身の自己批判をも含めて言っているのである。

日本ブルジョワジーの政治的歴史的局面はすなわち、日本帝国主義確立の局面である。この局面は、これから数年又は十数年を貫く局面であるだろう。

政治闘争の巨大な昂揚を我々が準備するためには、何よりも、日本帝国主義確立という今日の局面を認識し、この局面を歴史的に対決する路線が確立されなければならないのである。

個々の鋭い闘争もこの歴史的な展望のもとに革命的な政治闘争の歴史的な準備の中に位置づけられないならば、「戦術左翼的」なものとなり、又「一揆主義的」なものとなり、また「飛躍」を得ないであろう。

同志諸君！
我々は、日本帝国主義確立の環が何であるか知っている。そのいくつかの敵階級の夢みている課題を我々は見抜いている。それらに対して、我々は、調査し、宣伝し、連合し、戦闘部隊を育成して、今から不断に準備し、不断に闘争してゆかねばならない。

同志諸君！
我々は、日本帝国主義支配階級に対する戦線は、具体的には、日本帝国主義確立のいくつかの環に対する不断の闘争、不断の宣伝、不断の連合、によって形成されるのである。

同志諸君！
我々が、それをすでに闘ってきたものである。闘いの課題として討議してきたものがあり、分析してきたものである。問題は、長期にわたる闘争準備、政治的闘争全体を

同志諸君！
我々は、今日の時代を生きている。抽象的議論はこの際余り必要でないであろう。

同志諸君！
我々は、今日の時代を生きている。抽象的議論はこの際余り必要でないであろう。

同志諸君！
我々は、今日の時代を生きている。抽象的議論はこの際余り必要でないであろう。

同志諸君！
我々は、今日の時代を生きている。抽象的議論はこの際余り必要でないであろう。

同志諸君！
我々は、今日の時代を生きている。抽象的議論はこの際余り必要でないであろう。

同志諸君！
我々は、今日の時代を生きている。抽象的議論はこの際余り必要でないであろう。

展望の中で、強力鮮明な意識的な活動、日本帝国主義と対決する鋭い闘争の展開の中で、日本帝国主義確立の政治闘争、歴史的な局面を、革命的な政治闘争の激発と強力な革命的な闘争の戦線をつくり出すことなのである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

同志諸君！
我々が今最も必要としていることは、この状況の中で、最も鮮明な政治闘争の展望を示すことであり、その路線を示す事であり、その歴史的な意義を示すことである。

現代のいかなる変革も、それが社会主義革命でなければ、革命の戯画でしかないのだ。要するにはつきりさせておくべきことは、帝国主義が世界的規模の体系であるということである。それゆえそれは世界的規模の衝突において打倒されるのである。

我々の斗争の戦線目標は帝国主義の粉砕でなければならぬ。『マルネスト・チェ・ゲバラ』『ベトナムの自由のための世界の斗争』

同志諸君！

我々は、全世界の至る所でプロレタリア革命をめざしてプロレタリアと貧農が立ち上る時代に生きている。「社会主義」と称する墮落したプロレタリア独裁の下でも現代修正主義に反対しプロレタリア革命を発展させるために革命的プロレタリアートは立ち上りつゝあるのだ。

世界革命をめざし、プロレタリアと被抑圧人民の真の階級をめざす闘いは、全世界の革命的プロレタリアートと革命人民そしてマルクスレーニン毛沢東主義の旗の下にある革命家によつてはつきり自覚されている。そして、それは単にそう希望している決意しているというだけでなく、世界資本主義、帝国主義の新たな現代は、全世界で

いたる所でプロレタリア革命斗争を行なう条件と路線が世界的思想として存在しているのである。

帝国主義者が全世界を収奪し、買弁ブルジョワジーを養成しプロレタリアートも育成した。封建勢力、革命地主を抱き込み、貧農を一層零落させることによつて、革命的農民の大軍をつくり出し、革命的プロレタリアートと同盟しその指導の下に世界革命に献身する貧農をつくり出した。すなわち世界資本主義の中軸たる帝国主義は新たな強大な敵をつくり出したのである。勿論、帝国主義はプロレタリアートを搾取し、植民地、半植民地を収奪して巨大化した。そして一部の墮落したプロレタリアートを買収し社民、修正主義を育成し又プロレタリア独裁を費やかし現代修正主義を育成した。このことは今もなお我々の世界革命の斗争の上に重くのしかかっている。

同志諸君！

「先進国」の我々は、今「後進国」の革命的プロレタリアートと貧農の世界革命斗争によつて、漸くレーニンとロシヤプロレタリアートの世界革命の偉業とその精神と理論を思いおこしたのだ。プロレタリア革命

運動が遅れたまじきな理由とは、まさにマルクスレーニン主義を深く身につけ貫徹し、具体的に活用し、世界革命を實踐することが不十分だったからである。

我々はマルクスレーニン主義を日本階級斗争としてアジアの中で、実践する具体的な形態を築かねばならない。プロレタリア世界革命をこの日本とアジアの革命斗争の中で本心に闘いぬくことこそ重要なのである。我々はいくつものまわりみちをした。マルクスレーニン主義をまもるために、些末な論争もした。しかし今や革命のための戦いと断続的活動こそすべてに優先する時がきたのである。レーニンは、世界資本主義の新たな段階である帝国主義に對し、最高に発展し最も凶暴になり最も腐敗した段階の資本主義である帝国主義に對し、徹底的かつ本質的な分析と批判を加えそしてプロレタリア世界革命の理論、路線、展望をさししめした。

そして、それは全世界の労働者と非抑圧民族の斗争の拠り所となつていく。だが、一國社会主義、生産力主義、プロレタリア民主主義の歪曲、そしてプロレ

リア世界革命路線の放棄等にレーニン主義を揚げレーニン主義に背くスターリンとその部下の手によつて現代修正主義へ國際共産主義運動は解体していった。レーニンが、プロレタリア独裁について危惧していたことがスターリンの死を境にはじまつてしまつたのだ。レーニンの運動と理論思想は死んだ形式と教典に交つてしまつた。

そして、第二次帝国主義戦争による世界資本主義の激動の中で、帝国主義戦争を内乱に転化しかつプロレタリア不断革命に転化した中国におけるマルクスレーニン主義と毛沢東思想に築かれた斗争こそ、辛くもマルクスレーニン主義の真の威力を守りぬき、発展させたのである。

七、プロレタリア革命斗争の当面の任務
同志諸君！

我々は、帝国主義諸國が殆んど対立、抗争を深めつゝある局面に生きており、か

帝国主義と日本帝国主義は、今や米帝国主義との対等をめざして帝国主義の確立を急いでいる。それは、いふまでもなく新たな帝国主義者同士の合従連衡をつくり出しつゝ、世界再分制への陰険な策動において醜い対立をつよめているし、又各帝国主義国内のプロレタリアート搾取を一方ですますはげしいものとし他方一握りの墮落せる労働者の買収をはかつている。そして又、かかる米帝国主義の相対的な、政治経済斗争における地位の後退は米帝の凶暴な本性と危機を一層深めている。それは米帝国内と米帝の侵略にさらされている。人民に一層の苦役と出血を強いている。又、日、仏、独などの確立に向いつゝある帝国主義も國內の人民への抑圧を深めつゝその反抗強化に直面し、そして又、被抑圧人民の革命的反抗に直面している。

没落しつゝある米帝国主義と確立しつゝある諸帝国主義、そしてプロレタリアート人民の高まりゆく反抗、革命の発展におびえているのである。

日本帝国主義は今確立局面にある。日本帝国主義は、金融独占体の全能とその

政治権力の強化をはかつている。そして、プロレタリアートと戦う人民の戦斗精神と戦斗組織を破壊しようとしている。そして、アジアへの政治経済上の浸透を強め、日本帝国主義の軍隊の養成につとめて、アジアの再分割を米帝と共謀しつゝ画策している。そして「70年安保」に象徴される米帝とのアジアに於ける対等な關係をつくりあげようと熱心している。

同志諸君！

我々の斗争は、プロレタリア革命の理論と戦斗指導部、その戦斗部隊、そして人民の組織を創りあげることであり、そして、日本帝国主義と闘い日本帝国主義確立と對決する革命的斗争を展開する諸準備を行つことである。

そして、日本帝国主義の侵略に直面しているアジア革命人民と連帯し、日本帝国主義との後盾であり共謀者である米帝下の黒人を中心とする革命的プロレタリアート、人民とも連帯してゆかなければならない。そして、くり返していえば、我々にはあらゆる政治斗争、あらゆる経済斗争において不断にその斗争を革命化するだけでなく、不断に革命的な実力斗争とその戦斗部隊を

つくりあげるようにしをければならないのである。

マルクスレーニン毛沢東思想の旗を高く掲げよ！
同志諸君！

我々はマルクスレーニン主義を再生させ、かつ現実の斗争に転化せねばならない。そして、レーニン死後マルクスレーニン主義の原則と理論を守りぬき、発展させたのは中国共産党と毛沢東、林彪であり、又カストロ、ゲバラであった。今世界的に斗われている、反帝斗争のために我々は現代修正主義、社会民主主義、反動思想に徹底的に斗わねばならない。

我々はここで、毛沢東についてふれなければならぬ。

毛沢東は、中国革命の斗争の中で、不断革命—世界革命の観点を現実転化し又見事に復活させたのである。

いわゆる「二段階革命」の理論は、ブルジョワ革命はブルジョワジーによってという枠をレーニンと共に突き破っている。(勿論、純理論上は、多少の曖昧さのある文献もある)そして、プロレタリアートに指導

はつくりあげるようにしをければならないのである。

マルクスレーニン主義とプロレタリア世界革命斗争を新たな段階に高めたものであった。

又、党、革命軍、人民その相互の連関について、プロレタリア革命斗争と革命軍の任務について、完全に正しい理論を示した。つまり「プロレタリア革命の軍事学」を完成したのである。

従って我々には、マルクスレーニン毛沢東主義の旗をかかげて、勇猛邁進せねばならぬ。

同志諸君！

日本帝国主义の打倒をめざし、アジア人民と米国人兵と固く連帯して、戦いを開始しよう。日本帝国主义の確立の局面を革命的

される不断革命の問題として「段階革命—プロレタリア革命の組織戦略」をあきらかにしたのである。この事は、マルクス、レーニン革命思想の中の宝である不断革命—世界革命—プロレタリア革命の観点と原則を、今日の階級斗争に現実に転化したものとして、世界革命運史上に特筆されねばならない。

そして、この事は、マルクス、レーニンが問題として残した、プロレタリア独裁から共産主義に至る階級斗争、プロレタリア革命の発展に関して前人未踏の問題を提起したのである。勿論このことは未だ完全なものではないかもしれない。だが、プロレタリア文化大革命に示される革命路線は、「資本主義から共産主義の間には長い過激期間がある」と認められているプロレタリア独裁の発展の問題が、いつ原則的線を示したものである。

この事は又、我々にとって宿願のごとくまつわりついていた修正主義日和見主義と革命国家の問題について、十分に回答を示したのである。無論我々にも、官僚打倒や一國社会主義路線などに閉じて批判を加えてきた。ただはつきり、指摘しておかねば

ならないのは次の事である。プロレタリア独裁を譲渡させるのは、停滞させるのは資本主義の残滓だけでなく、プロレタリア独裁下における階級とプロレタリア独裁下の機構そのものの中の矛盾にあることをあきらかにした事である。又世界革命の基地としての革命国家を発展させるためには、国内におけるプロレタリア革命派の主導権と発展を維持しプロレタリア民主主義に発展させ革命精神を鍛え上げることに基づいていなければならない事をあきらかにした事である。

又毛沢東は、帝国主义の新たな発展段階に呼応して、レーニンの帝国主义批判、国家学説、党理論を擁護しつつ、帝国主义の支配の一部をなす植民地、半植民地におけるプロレタリア革命の路線とその革命斗争の世界革命における役割をはつきりと提起したのである。それはつまり、国際反帝斗争の観点である。そして他方では、プロレタリアートに直接指導される革命的農民の斗争、共産党に直接指導される革命軍を人民とその斗争の中でつくりあげることを明らかにしたのである。

そして、この事は人民戦争論—として、

政治斗争の発展と準備の局面に転化し、又ブルジョワ階級を震え上がらせる実力斗争と戦斗部隊を発展させる局面とせねばならない。

そして、我々はマルクスレーニン毛沢東主義の旗の下に斗う革命家、革命的プロレタリアートの團結を日毎に固め、革命的政治斗争と革命的な経済斗争を準備せねばならない。その中で既成の組織の枠を打ち破つた、プロレタリア日本革命とアジア国際革命の新たな思想、理論、組織がつくりあげられていくであろう。

同志諸君！

プロレタリア世界革命にむけて、斗い、準備し團結を固めよう。

ニシア革命五〇周年萬才！
マルクスレーニン毛沢東主義萬才！

ロシア革命から五〇年——すべての共産主義者を名づける人が、これを祝っている。だがその祝い方、半世紀の歴史の受けとめ方はさまざまだ。その違いは口先だけの共産主義者なのか、本ものの共産主義者なのかを示してくれる。△レーニン、ボルシェビキによる人類史上初のプロレタリア革命。マルクスを創造的に発展させたレーニンに導かれた革命——誰もがこのことを認める。しかし、このレーニン主義が、メンシェビキ、カウツキーの第二インターの修正主義、日和見主義との不断の、徹底した理論闘争、党派闘争によって成立させられたことをわざとわすれようとしている人々が多いことか。△マルクスを歪めたカウツキー、レーニンを歪めたスターリン——「ボルシェビキ……歴史の発展は、修正主義をも「進歩」させるようだ。しかし、レーニン主義を正しく発展させる、革命家が現れないはずはない。マルクスの後にレーニンが現われたように……」。△ヨーロッパ革命の挫折とは逆に、中国革命は、当初のあやま

た指導と失敗にもかかわらず着実に発展した。そして、革命の勝利は、毛沢東思想を生み出した。マルクス・レーニン主義を正しく継承し、発展させた毛沢東——。中国は、その毛沢東の直接の指導の下に史上前例を見ないプロレタリア文化大革命を遂行している。△十月革命万才を叫ぶ人は多くても文化大革命万才を叫ぶ人は少ない。しかし思い出して見たまえ、十月革命の時に、万才を叫んだのはほんの少しだった。多くの自称マルクス主義者は、暴力革命ナ、ンセンスと叫んだ。口先だけの共産主義者なのか、本ものなのかははっきりするのは、こういう時だ。△修正主義の総本山——ソ共、そこに押戻する日共、その他の多くの「共産主義者」もロシア革命五〇周年を祝っている。ところが、それらの諸君は、十月革命を単なる歴史的事件として、その絵を壁にかざって鑑賞する調子でながめているだけだ。五〇年前は五〇年前、今は今、と考えている彼らは、革命から教訓を学びとり、現状に適用する事を、意識的にさげ

るのだ。自分達が日取るために、その合理化をするのみならず、革命的に闘っている人々を非難するのも彼らだ。そうすると、全くの反革命に転落するのだ。代々木の羽田闘争批判は単的な例だ。△文化大革命を正しく捉えない人々は、革命から五〇年経ったソ連の十月革命に背を向けた姿を認めることになる。われわれにとって必要なのは、十月革命の意義を認識するとともに、その後五〇年の変化を批判的に受けとめ、それを乗り越えた文化大革命を促進している中国人民、世界の労働者、被抑圧民族と固く団結し、不断革命——永続革命の旗印の下に断固として闘い抜くことだろう。偉大な中国革命——毛沢東は、ロシア革命——レーニンを創造的に発展させ、帝國主義の時代における世界革命の路線を打ち立てた。日本の革命闘争をその路線に正しく位置づけ、それに基づいた闘争の展開こそ、ロシア革命五〇年の正しい祝ひ方だ。

斗争スケジュール

11.9 佐藤訪米阻止全学連統一行動 四時 日比谷野音
——首相官邸実力抗議！

11.10 社学同(マルクス・レーニン主義派)総決起集会
——先進的学友は総結集せよ！

11.11 佐藤訪米阻止中央総決起集会 二時 清水谷公園
(日中関係諸団体主催)

——日中青学共闘に結集して斗おう！ 首相官邸、ア×大へ！
全学連総決起集会 六時 中央大学

11.12 羽田実力斗争
——死力を尽して実力阻止へ！

△ インタープライズ寄港阻止横須賀斗争 11月26日(日)
△ 南ベトナム解放民族戦線結成記念集会 ア×大抗議デモ 12月8日

社学同(マルクス・レーニン主義派)政治機関紙

赤光(36号)

発行日 一九六七年二月六日

発行者 社会主義学生同盟中央執行委員会

編集者 中央執行委員会機関紙編集部

連絡先 東京都千代田区神田神保町二二八

日新ビル内

レポルンオン社

電話 (三六三) 一一六〇番

¥30-